

2. 東北（地域別調査機関：（財）東北開発研究センター）

（-：回答が存在しない、_：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		百貨店（売場担当）	・中越地震の影響は残っているが、新潟市内では売上も悪くなく、全体的に衣料を除いて、化粧品やブランド品、雑貨等かなり良い数字になっている。企画展等も客の動員がうまくいっており、財布のひもが緩くなっていて、景気は良くなっている。
		百貨店（販促担当）	・今月の28日で上越新幹線も開通し、交通網も震災前の状態に戻りつつある。またクリアランスの商戦も11～12月のマイナス分を補てんできる。
		スーパー（店長）	・年末年始商戦も好調のまま推移しそうである。年明けは暖冬対策として春物商品の先行販売を始める。しかし明らかに消費が過剰になっているだけで、消費者の景気が良くなっているような感はない。今後その反動が来ることを懸念している。
		衣料品専門店（店長）	・年末に入り、ようやく例年並みの気候になってきて、動きの鈍かったシーズン商品の売上が見込めることと、フレッチャーズ需要が少しずつではあるが立ち上がってきており、今後に期待が持てる。
		乗用車販売店（経営者）	・12月28日に上越新幹線が復旧し、中越地震からの復興が期待される。また暖冬で買い控えた冬物需要が1月以降にあると思われる。春先も量販タイプの新型車が市場投入されるので、消費を刺激すると考えている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・新幹線の復旧、震災による宴会や婚礼の延期分の再受注に期待したい。
	住宅販売会社（従業員）	・法人建築部門では、工事量の増加が著しく、材料や職人の不足感が出てきている。個人向け住宅・マンションについても新学期が始まる前の引渡し希望は根強く、今後の受注が期待できる。	
	変わらない	商店街（代表者）	・商店街として来年も元日営業を決定し、盛り上がりを図ろうとしているが、来客数の割に売上が伸びず、客単価の低下が今後も続く。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	・当地方では、野菜や卵等年末の売り出しでもまだまだ高い食品が多くある。こうした時期はお茶のような嗜好品の単価はあまり期待できないが、そう大きく落ち込みもしない。
		百貨店（売場主任）	・当県は、IT関連や自動車といった好調産業が希薄で、景気の底上げにつながるような材料に乏しい。
		百貨店（広報担当）	・2～3か月後の3～4月の時期は、ヒト、モノ、カネが動く時期であるが、個人消費はイメージ消費の側面が強く、ウォッチャーの意見としては好ましくないかもしれないが、どうしても行財政施策等の外的要因の改善やてこ入れがないと期待できない。
		スーパー（店長）	・年末の買い物動向の中で「お供え餅」を見ると、昨年と様変わりしている。昨年までは多少高くても本物の餅でできたお供えが相当数売れていたが、今年はプラスチック製のお供えがよく売れている。安価であることとカビの問題はあるものの、不景気を象徴している。
スーパー（店長）		・一人当たりの販売点数は回復傾向にあるが、相変わらず必要なもの以外は買わない傾向にあり、この傾向は今後も変わらない。	
変わらない	スーパー（店長）	・競合等の外的要因は現状と変わらず、集客状況も依然厳しい状況が続く。	
	スーパー（総務担当）	・景気を引き上げる要素が、近郊に聞こえてこない。残念ながら、消費はシビアな動向が更に続くものと覚悟している。	
	コンビニ（エリア担当）	・ここ2年半位良くなる兆しが全くないままである。一部の勝ち組は分からないが、一般的な消費者は変わらないままである。	
	コンビニ（店長）	・景気そのものは変わらないと思うが、とはいえ学生アルバイトの就職状況を見ると、年々良くなっているというのが事実であり、そういう点から見ると業界格差はあるものの良くなっているのが実態であり、来年はプロ野球新球団も進出してくるので、期待できる。	

衣料品専門店（経営者）	・地方でもIT関連は景気が多少上向きであるが、小売業は依然足踏み状態で、特に暖冬で冬物商戦は全くの不振である。また市町村合併や郵政民営化等、世の中が揺れ動きすぎている。	
衣料品専門店（経営者）	・例年、春物商戦に入る時期であるが、景気や雰囲気、状況を考えるとあまり期待できない。	
住関連専門店（経営者）	・暖冬とはいえ、ようやく冬らしくなってきているが、例年のような売上しか期待できない。	
その他専門店〔酒〕（経営者）	・夏以降売上が下がりが気味だったが、やや下げ止まった感じがする。	
その他専門店〔酒〕（営業担当）	・やや酒関係は冷え込む。しかし市町村合併等の動きもあり、プラスマイナス変わらない。	
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・年度が変わっても基本的な消費動向に動きはないと思われる。業界自体が需要の減少を受けて、販売価格の低下傾向が続くそう。また、春に向かっての需要減退とあいまって、粗利益の減少が予想されるため、ガソリンスタンドの景気は回復が困難と見込まれる。	
高級レストラン（支配人）	・宿泊予約は昨年同日比で同数である。宴会予約は、婚礼が多少苦戦しているが一般宴会が順調で、そこそこの売上は確保できる。レストランは周囲の競合店が2月から40店舗閉鎖するため、当社としては良いが、一時的なものである。	
一般レストラン（経営者）	・この調査に協力して3年になるが、派手に景気が良くなるような感じがなく、ずっとこの低調なままの状態。予約状況も派手さがないため、あまり期待はできない。	
観光型ホテル（経営者）	・例年通り還暦等の人生の節目の祝い事の集まりは依然根強い。またお茶の会や踊りの会等のカルチャー的な集まりは年々人数が増えている。年末年始の高料金の時期を外し、三が日以降の利用が増えている。	
都市型ホテル（経営者）	・一般宴会、宿泊予約状況は相変わらず厳しいものがある。今般、婚礼専門雑誌に大きく広告を掲載したため反響があり、この土日は問い合わせや来館が多く、伸びが期待される。業界は依然としてゲストハウス系の参入により厳しさが続く。宿泊関係は新球団発足により、業界内には期待感がある。	
タクシー運転手	・当市に新球団が来ることになっているが、新球団が来てもすぐに景気が良くなるという状況ではない。今は悪い状況に向かっていて、これは変わらないで続く。	
通信会社（経営者）	・半年以前と比べここ数か月間は確かに不景気感は薄らいできているが、顧客の購買意欲に力強さはあまり感じられず、賢さだけが強調されているように感じられる。	
テーマパーク（職員）	・予約スピードがかなり遅くなっているのに付け加えて、団体人数も少数になってきている。先行きを読めない状況である。	
美容室（経営者）	・景気の回復感が感じられない。来客数、単価的な部分も含め、ほとんど横ばいである。良い材料としては新球団進出があるものの、現実的には横ばいで推移する。	
設計事務所（経営者）	・年度末になり、手持ち仕事はおおむね終わっている。来年の仕事は今のところ、ないといえないし、あるといえばあるような状態で、正月以降に新しい話が出てくるのを期待して待っている状況である。	
住宅販売会社（経営者）	・ローン減税の反動落ちが一段落し、受注状況は2か月連続持ち直しており、しばらくこの状況が続くと思われる。ただ、展示場来場者数が減少気味なのが先行き不安材料として心配である。	
やや悪くなる	商店街（代表者）	・支出デフレというのか、ガソリンや灯油、卵が高くなるとその分だけ他が減っていくという悪い循環に入っているが、収入が増えないから当然である。また中央と地方の収入格差、これは将来国を揺るがす大きな問題に発展する。東京が勝ち組で地方が負け組という構図はまずい。
	商店街（代表者）	・景気厳しき折は活況を呈すというジンクスがあるので、来春の初売りは期待できそうであるが、その後の反動が危惧される。
	一般小売店〔書籍〕（経営者）	・春の繁忙期前の月であるが、売上をけん引する出版もあまり予定はなく、今のところ期待薄である。

百貨店（企画担当）	・年金のボーナス2回でのまとめでの引き落としや増税等、消費者の不安は大きい。それに加え暖冬で冬に関する商品が売れず、製造及び販売含めて今後のキャッシュフローに影響が出てくる。
スーパー（経営者）	・当地の場合は、農家の景気が全体に影響を及ぼす。今年はラフランスが値段は高かったものの3割減、りんごも数量減、年末になり値上がりするはずの野菜が値下がりしており、このままでは農家の収入が減少して、景気が悪くなる。
スーパー（経営者）	・当地域に限って言えば、地震の影響もあり、急速に不況感から脱することはできない。新幹線が復旧する等交通インフラが戻ってくればいいが、これから冬を迎え、客の動向がプラスに転ずるとは考えられず、低調な状況が続く。
スーパー（店長）	・野菜、灯油、卵等の生活必需品の値上がり感が消費動向を冷やす。
コンビニ（エリア担当）	・客単価が上昇する理由が見当たらない。逆に増税等で負担が増え、景気は一段と悪くなる。
衣料品専門店（店長）	・バーゲン期になると30～40歳代のファミリー層の来店が増えるが、今年はこの層に出遅れがあったりシビアな動きになっている。この層が動かないと売上は厳しい。
家電量販店（店長）	・冬物の販売量が少ないのと、単価低下が顕著であり、それを補うものもないため、当面低調なままで推移する。
乗用車販売店（経営者）	・冬のボーナス支給状況並びに自動車リサイクル法1月1日施行の影響により、市場においては客との間にギクシャク感が出ると予想され、当面の間需要の発生は先送りの感が強く、前年超えは難しい。
乗用車販売店（経営者）	・中越地震の影響が下越地方の公共事業に響くと心配している。
住関連専門店（経営者）	・年金、社会保険、税金等いろんな値上げが報道され、負担が増えるため、その分所得の少ない地方では大きな影響を受ける。
住関連専門店（経営者）	・消費者の考え方や周りの業者の考え方が悲観的で、今後良くなる見込みがない。当社でも何の対策も打てず、ますます悪くなる。
その他専門店〔パソコン〕（経営者）	・物販や建設関係など官公庁関係が価格を下げ、たいてい契約するため、商品価格や施工価格が市場より安く、下請になるほど利益が薄くなり、またその価格が市場に知れ渡り一般企業も安くさせている。こういった利益の薄い、または無い状態が続くということは、まだ全体的景気は回復傾向とはいえない。
一般レストラン（経営者）	・各商圏内での競合が一段と増しており、消費者の利用頻度の低下が今後も続くため、やや悪くなる。
その他飲食〔そば〕（経営者）	・増税、社会保険料の負担増等ますます家計が圧迫され、食事に使う金額は一段と下がる。個人事業者はこの厳しい状態の中で必死に頑張っている。
観光型旅館（経営者）	・1月は比較的堅調であるが2、3月が例年より弱く、この辺りが見えないところが気になる。中越地震以降の冷え込みと3月からの万博の期間は要注意である。設備投資した露天風呂を全面にPRしながら努力していく。
観光型旅館（経営者）	・今年は県内で大きな災害はなかったが、西のほうでの台風や地震の影響が出ると思われる。災害直後は、振替の旅行も2～3件あったが、キャンセルも発生している。全体として旅行マインドは低い状況が続きそうである。
都市型ホテル（経営者）	・この業界の中で主力の飲み物であるビールの仕入れ値が1月1日から値上げとなる。上げ幅にスライドして料金も上げざるを得ず、このままでは値上がり感を客に持たれる。またパック商品等の単価を出さない商品は、ある程度内部でカバーせざるを得ず収益が悪化する。
旅行代理店（従業員）	・一般的には景気が回復しているという話であるが、家計単位でみると収入は変わらないのに厚生年金や健康保険等の負担が増えているため旅行への支出を抑えている。
観光名所（職員）	・年末年始のように、短期間に多くの誘客は望めない。また「雪見」タイトルの団体の予約も今いち入っておらず、個人客も減少が見込まれる。
悪くなる	スーパー（経営者） ・地震後の雇用の悪化と道路の除雪が悪化しているところに将来不安もあって消費は冷え込む。

		衣料品専門店（経営者）	・身の回りの人の話を聞いても、皆が悪いと言っている。良くなるような情報もない。そうした中で増税等の話題が出ており、景気が良くなるということはなく、悪くなるだけである。
		自動車備品販売店（経営者）	・現状で暖冬の影響で降雪がなく、1か月もズレている状態では関連する業者に多大なダメージを与える。
		一般レストラン（経営者）	・やはり増税の話が購買意欲をそいでいる。大学の授業料の値上げ等、公の部分で値下げするものが何一つなく、消費を抑えている。
		タクシー運転手	・12月は忘年会のシーズンで当てこんでいたが、全く忘年会の客も含め減少している。こうした状況の中まだ増車する話もあり、良くなることはない。
企業動向関連	良くなる	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・年度末の仕事は例年通りに見込める。しかし価格競争という部分での不安はある。
	やや良くなる	広告業協会（役員）	・プロ野球開幕に向け、関連する業種は一段と良くなり、地方経済に及ぼす効果は大きい。
		広告代理店（営業担当）	・新球団の球場内広告看板の契約が始まっている。
変わらない		食料品製造業（経営者）	・低単価商品はある程度の動きが見られるものの前年に比べれば減少傾向にあり、これから春先にかけての回復も期待できない。
		食料品製造業（経営者）	・正直なところ「変わらない」というよりも「分からない」といった方が正しい。アメリカでのBSE発生以来、解決方法についている報道されているが、今の流れでは若齢牛（20か月以下）だけの解禁という形になりそうで、それでは我々の業界の需要を満たすことはできない。
		建設業（従業員）	・落ち着いた感はあるが、鋼材や原油の高騰に伴う資材の値上がりで多少好況感が見え出した民間設備投資の利益を圧迫している。
やや悪くなる		食料品製造業（経営者）	・来年は原料の価格が上昇傾向。さらにインドネシアでの津波の被害により、原料搬入が遅れたりする可能性もあり値段だけでなく原料手当てでも苦労するかもしれない。
		繊維工業（総務担当）	・産地全体が冬物の販売不振で、アパレル関連の2～3か月先に始まる来秋冬物の企画を手控える動きが予想され、特にコート関係が痛い。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・為替の水準が現状の水準で推移するか、もしくは更なる円高で推移した場合は、輸出の採算は急激に悪化する。携帯電話用部品は計画比マイナス20%の状態がしばらく続く見込みであり、生産体制も4組3交替から3組3交替に変更する予定である。
		電気機械器具製造業（経営者）	・仕事の絶対量が少なくなる中、新規受注先にアタックしているが、コストの面で予断が許されない状況である。現在は来期の事業計画を作成中であるが、目玉になるビジネスが見えない状態である。今期は新紙幣発行による関連機器が目玉であった。
		建設業（企画担当）	・鉄鋼、ガソリンの値上がりが徐々に影響し、建設業にとっては、少なくなっている受注機会への悪影響が懸念さ
		金融業（営業担当）	・主要産業中、好調であった電子部品関連が減速気味である。加えて住宅着工も前年比大幅な減少となっており、今後雇用情勢にも影響を及ぼす。
		経営コンサルタント	・減税の見直しなど消費抑制に拍車をかけるニュースが先行しており、政治不信から景気失速につながる懸念があ
		コピーサービス業（経営者）	・設備投資に対する意欲が減退している。民業は特にその感が強い。官公庁ではいろいろな問題が出てきており、慎重に購入する方向に向かっている。また特別行政法人が大分できてきている現状では、購入形態が慎重になってきてい
		その他非製造業 [飲食料品卸売業]（経営者）	・酒類の消費は今後も減退する。徐々に売上が下がることを想定し、量ではなく質や単価で販売戦略を考えねばならない。また、来年からのビール、発泡酒のオープン価格化は消費動向に更にブレーキとなる。
		その他企業 [管理業]（従業員）	・年末年始の休みは今までにないほどの長さになっている。工場も暇で、忙しくなりそうもない。

	悪くなる	その他非製造業〔飲食料品卸売業〕（経営者）	・今年8月頃までは天候が良かったこともあり前年比でも良い状況であったが、9月から急に悪くなっていて景気が本当に上向いているというのには疑問が残る。今後もこうした悪い状況が続く。
雇用 関連	良くなる	人材派遣会社（社員）	・取引先の業種によりまちまちであるが、県央や県西部地区のフラッシュメモリーや精密機器等で来春に向けての注文が順調に入る見込みであり、好調が維持できる。
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・派遣法の改正も影響してか長期雇用のできる環境が整いつつあるため、以前のように短期やスポットの派遣というより、紹介予定派遣も含めた形で長期安定就業を検討してもらえる機会も増えたような気がする。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・1年の経済動向を占う初売りも、郊外と中心市街地とのすみ分けができるようになり、消費者動向も上向きになっている。流通を中心に初売りへの期待度が高まっている。これに伴い、新春の景気動向も良くなるものと期待でき
		職業安定所（職員）	・地震の影響も、仮設住宅への入居が進み、今後は求人や求職活動が活発化するのが予想される。さらに有効求人倍率がいい数字を維持し、更に増加の傾向にある。
変わらない	人材派遣会社（社員）	・今後人員を減らす予定という話は皆無で、何らかの増員計画を持っている事業所が多いと感じている。	
	人材派遣会社（社員）	・企業からの派遣依頼は堅調であるが、特に20歳台を中心とした派遣登録希望者は減ってきている。今後のオーダー決定への影響が懸念される。	
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・雪が降るのが遅く暖冬となり、冬物を扱う商売はダメージを受けている。正月商戦も百貨店や小売店では広告予算を抑制している。	
	職業安定所（職員）	・求人数の増加傾向は変わっていないが、在職者を中心に求職者も増加しており、有効求人倍率が横ばいになるなど、雇用条件の改善につながっていない。	
やや悪くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・製造業関連での雇用調整がこのところ進行中と思われる。求人件数に影響が大きい。	
	職業安定所（職員）	・消費者の需要が伸びない。今後企業としてはアフターサービスの項目が重要になる。	
	職業安定所（職員）	・求人数は極端に落ち込んではいないが、パートや臨時雇用が多く、求職者の希望とマッチしない。また企業整備や事業所閉鎖が後を絶たない状態である。	
	職業安定所（職員）	・産業別の求人数の推移を見ると総じて後退局面を感じさせるものとなっており、拡大基調を感じさせる業種が少なくなっている。一方、新規求職者はここにきて増加の動きを見せており、今まで続いてきた回復基調の動きに変化がうかがわれる。	
	悪くなる		